

## キャリア形成コースのモデルカリキュラムの構想 (1)<sup>1) 2)</sup>

学生のカリキュラム認識度とコース選択の意志決定

牧野幸志

### An idea for a model curriculum of the career management course (1).

Students' cognition for curriculum and decision-making for course selection

Koshi Makino

#### Abstract

This study was planned to suggest an idea for a model curriculum of the career management course in management system department of faculty of business administration at Takamatsu University. Seven sophomore students took part in a survey by completing a questionnaire and answering in interview. The results were as follows : (1) No students recognized the curriculum of the career management course. (2) Most students selected the classes with no special reason. They enrolled in as many classes as possible. (3) The sophomore students had not made any decision regarding the selection of specialized courses as juniors and seniors. Finally, it was suggested that we should explain to the students the course system, and that we need to start the course system earlier.

Key words : curriculum カリキュラム, career management course キャリア形成コース, students' cognition for curriculum 学生のカリキュラムの認識度, decision-making for course selection コース選択の意思決定.

#### 問 題

近年,多くの大学において改組やカリキュラム改正が行なわれている(生田・浦野・井上・篠原,1989;塚野,1991;渡部,1989)。これは,国立大学の独立行政法人化や少子化の影響により,各大学がその組織をコンパクトにする目的とともに,より多くの学生を集めるために,魅力的な大学づくりを行なう目的で行なっている。実際,カリキュラムは大学における教育の根幹を成すものであり,カリキュラムにより授業の運営が成されてい

<sup>1)</sup> 本研究は,平成15年度 高松大学 教育研究経費 共通研究費 課題名「キャリア形成コースのカリキュラム再構築と将来構想の設定」の援助のもとに行われたものである。

<sup>2)</sup> 本研究をまとめるにあたり,「演習」(平成15年度高松大学)を受講した学生のみなさんに協力いただきました。記して感謝いたします。

く（田中・今井・赤堀・藤岡，2000）。

学校法人四国高松学園（畠山理事長）は，香川県高松市に位置し，4年制の高松大学と高松短期大学，附属幼稚園から成る。現在，高松大学は経営学部2学科（経営学科，マネジメントシステム学科）より成り立ち，高松短期大学は保育学科（平成15年に改組，旧幼児教育学科），秘書科，音楽科から成り立っている。高松短期大学保育学科においてもカリキュラム改正の検討が行なわれてきた（松原・西浦・坪井，2003；松原・西浦・坪井・井上・柴田・池内・田中，2003）。

高松大学は，平成8年4月経営学部（産業経営学科）を開学した。その後，平成12年4月高松大学大学院（経営学研究科）を開学し，経営学部（マネジメントシステム学科）を開設した。さらに，平成15年4月，経営学部（産業経営学科）を（経営学科）に学科名称を変更した。平成12年度4月に開設されたマネジメントシステム学科では，IT時代にふさわしい知識・技術とビジネス社会で必要とされる実務能力をもった人材を育成することを教育目的とした。学科開設当初は，学科に大きく4つの柱を建てた。それらは，パソコンの使用を中心とした「情報」，人間関係について学ぶ「心理」，ビジネスで必要となる「法律」，マーケティングなどの「調査」であった。しかしながら，4つの分野の関連性を見いだすのが困難という理由，4つに詳細化されていても学生自身は認知していないなどの理由から，よりわかりやすいコース制を取ることが提案された。その結果，平成13年度より，ビジネス情報コースとキャリア形成コースの2コース制がとられることとなった。

ビジネス情報コースは，ビジネス社会，特に情報部門で有用となる，さまざまな情報の処理および情報システムについての知識と技能を養成することを目的としている。コースの選択必修科目は，「データ構造とアルゴリズム演習」，「データ構造とアルゴリズム演習」，「情報システム開発論」，「データベース論」，「マルチメディア演習」である。他方，キャリア形成コースは，ビジネス社会で身につけておくべき知識と技能を養成することを目的としている。コースの選択必修科目は，「対人コミュニケーション」（心理学），「キャリアマネジメント」（心理学），「消費者経済論」（複合分野），「調査論」（調査），「財産法」（法律）である。目的の説明でもわかるように，ビジネス情報コースがパソコンの使用を中心とした情報分野を専攻するコースであるのに対し，キャリア形成コースは，前身であった4つの柱から心理，調査，法律を集めた複合した分野であるためにコースの概念がわかりにくい。このことがコース選択にも大きな問題を残している。

本年度（平成15年），高松大学経営学部マネジメントシステム学科は，完成年度を迎えようとしている。この時期に際して，カリキュラムの点検と再構築を行なう必要があるだろう。特に，3つの分野が複合して構成されたキャリア形成コースについては，コースの教育目標，カリキュラム内容，身につけさせたい技術などを明確化していく必要があると思われる。

そこで，本研究では，高松大学経営学部マネジメントシステム学科のキャリア形成コースのモデルカリキュラムの構想と将来構想の設定のために，現在の学生のカリキュラムの認識度を知ることを第1の目的とする。カリキュラムを再構築するためには，まず，現在，学生がカリキュラムをどのように認識しているかを把握する必要がある。また，平成13年度より始まったコース制において，学生が3年次からのコース選択をどのように考え，どのように決定しようとしているかを調べることを第2の目的とする。

## 方 法

### 面接対象者と被調査者

私立高松大学の平成15年度学部専門科目「演習」（2年次前期）を受講している大学生7名（男性5名，女性2名）を対象に面接と調査を行った。面接では，受講している授業科目とその区分，コース制の認知，コース選択の意志，就職希望などについて質問した。調査は，各自に自分の時間割を再作成してもらい，その時間割に授業科目の区分（教養，教職，専門，コース専門など）を記入してもらった。提出された時間割を分析対象とした。

### 手続き

平成15年度前期に開設された「演習」の授業の中で，約30分の個人面接を1回行った。また，時間割に関する調査は授業を3回使用して時間割表を作成してもらった。時間割は，既に登録している時間割をもう一度作成し，その後，学生便覧を見て，その授業科目がどのような位置づけになっているかを調べて記入する形とした。

## 結 果

### 学生のカリキュラム認識度

学生の時間割 7人の受講生の中から無作為に4名（男性2名，女性2名）を選び，その時間割を分析対象とした（Table 1 からTable 4 参照）。時間割を，全体的傾向，登録単位

数，コース選択科目，コース選択意志の観点から分析した。

全体的傾向と登録単位数 時間割全体を見てみると，2年次前期には，教養科目，専門基礎科目，学科専門科目（少人数制のゼミ）が多いことがわかる。1年次に続き，教養科目（語学を含む）を受講し，専門の中でも基礎的なものが組み込まれていることがわかる。唯一「オフィス環境の心理学」だけがコース専門科目として2年次前期に開設されているが，この意図は不明である。2年次後期には，専門基礎科目，学科専門科目に加えて，ビジネス情報コースとキャリア形成コースの専門科目が開設されている。また，登録単位数は，45単位から60単位である。高松大学では半期20単位前後を標準と定めているため，学生は多めに登録していることがわかる。

コース選択科目とコース選択意志 主に，2年次後期より2つのコースの専門科目が開設されている。学生は，ビジネス情報コースの中から「オペレーションシステム」，「応用統計」，「情報社会研究」を選択している。また，学生は，キャリア形成コースの中から「オフィス環境の心理学」，「消費者経済論」，「財産法」，「消費者行動論」などを選択している。コース専門科目の選択率を見ると，いずれの学生もほぼ同じ程度に選択している。つまり，両コースの科目を選択している。さらに，開設されている科目すべてを選択している場合も多い。これは，開設されているコース専門科目が少ないために，選択の余地がなく，すべて登録しておこうという考えが伺える。学生は，3年次から各研究室に分かれ，コース選択を行なうことになるが，2年次の後期の時点ではコース科目の選択を行なえない，あるいは，迷っているため行なわない状態にある。





## コース決定意志

7人の受講生に対して、面接調査を行った。面接に際して、「面接中の発言は自由であること」、「面接中の質問に正解はないこと」、「面接の結果は受講している授業の評価には関係しないこと」などが説明された。学生に対して、1人30分程度の半構造化面接を行なった。面接の質問項目は、「コース制が引かれていることを知っているか?」、「コースを意識したことがあるか?」、「将来(3年次から)、どのようなことを勉強したいか?」、「(コース制を説明した後で)どちらのコースに進みたいか?」などであった。今回の面接調査では対象者が少なかったため、統計的分析は行なわなかった。

コース制の認知 7人の受講生のうち、コース制の制度を知っているものは0人であった。比較的まじめな学生も含まれていたが、コース制は認知されていなかった。したがって、コース制を意識したことのある学生、コース制を意識して授業科目を選択していた学生もいなかった。授業の選択方法について質問したところ、「時間割表を埋めるようにして決めている」、「時間割にあるものをすべて登録している」、「授業が重なった場合のみ選んでいる」、「授業が1つしかない曜日はその日を休みにするため取らない」などの意見がみられた。したがって、学生はコース制を認知しておらず、2年次後期になりコース専門科目が開設されても、コースの意味を理解することなくただ多くを登録しているにすぎないということがわかる。

コース選択の意思決定 7人の受講生に対して、3年次からの学習希望内容とコース決定について質問した。その結果、7人中3人は特に学習したいという分野はなく、2名は「法律関係」を希望しており、残りの2名は「消費者に関すること」を希望していることが明らかとなった。ビジネス情報を挙げる学生はいなかった。さらに、コース制の説明をし、それぞれのコースを担当する教員の紹介をした後に、コースの希望を尋ねた。その結果、7人中5名は、まだ決まっていないという回答であった。残りの2名については、確定はしていないものの「キャリア形成コース」を希望していることがわかった。コース制が認知されていないために、3年次からのコース決定についても2年次の前期終了時点でも意思決定がなされていないことがわかる。

## 考 察

本研究は、高松大学経営学部マネジメントシステム学科のキャリア形成コースのモデルカリキュラムの構想のために、現在の学生のカリキュラムの認識度を知り、学生のコース

決定意志を探求することを目的とした。そのために、まず、学生に対して調査と面接を行い、コースが認識されているかを調べた。その後、学生が3年次からのコース選択をどのように考えているか、さらには、既に決定しているのかを面接により調べた。

第1に、2年次のカリキュラムを分析したところ、2年次前期には、教養科目、専門基礎科目、学科専門科目（少人数制のゼミ）が配置され、1年次に引き続き、教養（語学を含む）を身につけ、専門の中でも基礎的なものを学ぶことを目的としていることがわかる。キャリア形成コースの専門科目「オフィス環境の心理学」だけが、唯一2年次前期に開設されているが、1年次終了時ではコースの認識は全くなされていないと考えられるため、2年次前期に開設するのは不適切である。その後、2年次後期に入ると、専門基礎科目、学科専門科目に加えて、ビジネス情報コースとキャリア形成コースの専門科目が開設され始めている。これは、3年次でのコース決定を考慮してのことであり、適切な時期であると考えられる。しかしながら、各コース4コマずつと多少少なく、さらに両コースの説明がなされないままに履修が始まっているため、ほとんどの学生が両コースの科目を登録しているという結果になっている。また、キャリア形成コースは、前身の4つの柱の中の3つ（心理、法律、調査）を柱としているが、2年次においては「調査」に関する授業科目は全くみられない。「調査」に関する科目の中で主要科目である「調査論」は3年次後期に開設されている。現行のカリキュラムでは、3年次前期で卒業要件を満たすだけの単位を取得する学生もいるため、開設時期が著しく遅いと思われる。さらに、学生の登録単位数は、45単位から60単位であり、適切な範囲にあると思われる。

第2に、学生の授業選択態度を調べたところ、学生は、2年次後期において、両コースの科目を同程度に選択している。さらに、開設されているコース科目すべてを選択している場合も多かった。この現象について、コースを決定するために、まず両コースの科目を取り、それにより3年次からのコースを決定しようと考えているためか、あるいは、ただ単に開設されているコース専門科目が少ないために、すべて登録しようと考えているのかを面接により調べた。その結果、ほとんどの学生はとりあえず開設されているコース科目を登録しておこうという考えであることがわかった。なぜなら、学生のほとんどがコース制を認識していなかったからである。

最後に、学生が3年次からどのような学習を希望しているか、3年次からのコースを既に決定しているのかを調べた。その結果、3年次からの学習内容については、面接を行なった担当者がキャリア形成コースの担当ということもあり、半分はキャリア形成コース

の内容を希望していた。残りはまだ決まっていなかった。残念ながらビジネス情報を挙げる学生はみられなかった。これは、パソコンなどの情報機器を用いる授業が好きな学生にとっては、ビジネス情報は魅力的であるが、一度苦手意識を持った学生にとっては取り組みにくいコースと映ったためではないかと推測される。また、3年次からのコースの希望を尋ねたところ、ほとんどの学生はまだ決まっていなかった。以上のことから、現状では学生に対してはコース制は全く認識されていないことが明らかとなった。また、2年次前期終了時点でも、コース選択の意志は全く決定されていないことも明らかとなった。

今後の課題として、以下の点が考えられる。第1に、学生にコース制を認識させる必要があるだろう。コース制については、学生便覧に明記されている。しかしながら、その制度については厳格な基準が設けられていない。例えば、コース必修科目、コース選択必修科目などが決められていないため、最終的にはどちらのコースでもどの授業も受講できることになっている。したがって、学生はどちらのコースも意識することなく受講していくことができる。このような場合には、学生は、各授業の関連性を考えることなく受講していき、基礎科目を受けることなく応用科目を受講したり、ある特定分野の基礎科目だけを受講してしまうこともある。このようになると、3年次にコースを決定した場合に、そのコースで必要とされる基礎科目、専門基礎科目を学習することなくコース専門科目を学習することになり、その結果、授業についていけなくなることも考えられる。

第2に、早期からのコース制の開始が求められる。現在、マネジメントシステム学科では3年次からのコース制を行なっている。3年次に研究室分けが行なわれ、その際に担当する教員によりコースが分かれている。現状のカリキュラムでは優秀な学生は3年次前期で卒業要件に必要な単位を修得してしまうが、そのような学生においてもコース制を認知しておらず、系統的な学習をすることなく卒業を迎えてしまう。したがって、2年次からのコース制導入を行なうことが必要である。1年次に教養科目や専門基礎科目を学び、2年次にビジネス情報コースかキャリア形成コースを選択して、各コースの専門性を高めていくことが不可欠であろう。

#### 引用文献

- 生田孝至・浦野 弘・井上光洋・篠原文陽児 1989 教職専門科目「教育の方法・技術」の授業科目のカリキュラムの構想 東京学芸大学紀要 第1部門(教育科学), 40, 165 - 175.
- 松原勝敏・西浦和樹・坪井貴子 2003 保育者養成カリキュラムの構造化に関する取り組み 高松大学紀要, 39, 153 - 170.

- 松原勝敏・西浦和樹・坪井貴子・井上範子・柴田玲子・池内祐二・田中美季 2003 保育者養成カリキュラムの構造化に関する取り組み 教員間の授業内容の調整による構造化の実現 高松大学紀要, 40, 153 - 167.
- 田中每実・今井重孝・赤堀侃司・藤岡完治 2000 課題研究 大学カリキュラム改革と授業改善 京都大学高等教育研究, 6, 1 - 20.
- 塚野弘明 1991 授業で学ばれている知識とは何か: かくれたカリキュラムについての心理学的考察 岩手大学教育学部附属教育実践研究指導センター研究紀要, 1, 385 - 399.
- 渡部昭男 1989 教員養成カリキュラムの改善に関する研究: 「開設授業科目・系統図」の作成 鳥取大学教育学部研究報告 教育科学, 31, 159 - 167.

高松大学紀要

第 41 号

平成16年 2月25日 印刷

平成16年 2月28日 発行

編集発行

高 松 大 学  
高 松 短 期 大 学

〒761-0194 高松市春日町960番地

TEL (087) 841 - 3255

FAX (087) 841 - 3064